

武蔵野美術大学
建築学科
学科紹介2017

Musashino Art University
Department of Architecture



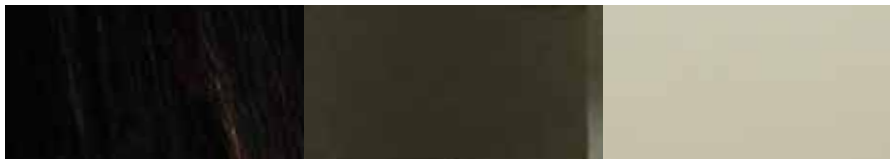
建築ってなんだろう？

ムサビ建築学科は
どんなところ？

建築学科で
学べる領域は？

カリキュラムの
特徴は？

スタジオ制って
どんな仕組み？



居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市…という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。



住宅から都市、アートまで、人の営みを建築の視点から考えます

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特色を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎を学び、工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を統合するものとして建築デザインを学びます。多様なスタジオでは建築、インテリア、ランドスケープそしてアートまで、興味を深めることができます。



私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではなく、人がその一生をかけて体験するすべての環境が、学びの対象になります。

- 建築デザイン
- インテリアデザイン
- 空間デザイン
- ランドスケープデザイン
- 環境造形
- 建築理論
- ワークショップ
- コミュニティデザイン
- 住宅設計
- インスタレーション
- 環境計画
- 都市デザイン



「設計計画」を軸に4年間学びます

教育の大きな軸は、4年間必修の「設計計画」。「計画=planning」と「設計=design」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

3・4年次の学びは個性を伸ばし、自分の関心と興味を深めます

3年次以降の設計演習(設計計画Ⅲ・Ⅳ)とゼミ(卒業論文・卒業制作指導)は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。4年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。



環境を形成するものとして建築を捉え、家具・室内から都市・ランドスケープまで扱う、美大の建築学科ならではのカリキュラムです。

1 年次 造形の各分野を広く学ぶ

1 年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザインに触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1 年次から自由に選択できます。

建築学科が開設する科目では、前期には建築設計基礎、建築設計表現、図学により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期からは、4 年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習)が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインなど工学的内容の授業も1 年次から始まります。工学部建築学科のカリキュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1 年を通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。

前期・後期の終わりには、外部講師者を招いて1 年次から4 年次までの優秀作品を一堂に会して発表、講評するパーティカルレビューを開いています。1 年生にとってはこれから4 年間建築デザインを学んでいく流れを知るまたとない機会となります。

2 年次 専門に向けて基礎を学ぶ

2 年次の建築設計演習「設計計画II」では、住宅や小規模の公共的建築など機能をもつ建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多面的に深く考えることを目指します。2 年間で建築デザインの基礎、表現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。

講義科目では、多様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料、計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通して、ひとつの建築ができていくまでに必要とされる知識をしっかりと学びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形という視点が重要であると考え、2 年次から環境計画 (Environment Planning) や基礎造形など学科独自の講義が始まります。

3 年次 スタジオで深く学ぶ

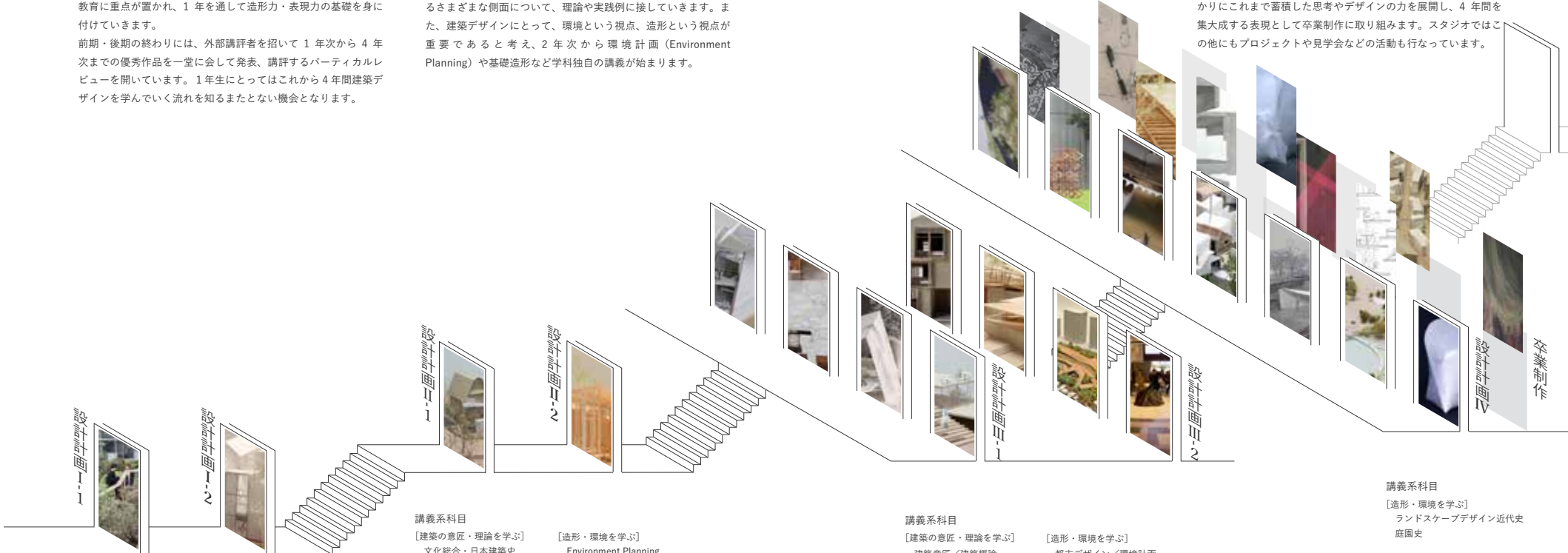
3 年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマをもつ8 スタジオ (前期4+後期4) から各期1 スタジオずつを選択して学びます。分野としても建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインなど多岐にわたり、テーマの異なる2 つのスタジオで学ぶことで、自分の関心のあるテーマを模索、発見し、個性を発揮していくチャンスとなります。

講義科目では2 年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザイン、建築形態論など、領域を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することができます。

4 年次 スタジオから社会へ

4 年次には1 年間を通して1 つのスタジオに所属します。スタジオでの時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来への旅立ちの第一歩となります。「設計計画IV」では空間やものづくりに関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレーションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来どのように建築と関わっていくかを考えます。

卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4 年間で集大成する表現として卒業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会などの活動も行なっています。



演習系科目
造形総合・彫刻
造形総合・絵画
建築設計基礎
図学
建築設計表現

講義系科目
[建築の計画・技術を学ぶ]
構造デザイン
構造力学基礎
基礎数学

講義系科目
[建築の意匠・理論を学ぶ]
文化総合・日本建築史
文化総合・西洋建築史
文化総合・近代建築論

[建築の計画・技術を学ぶ]
建築計画/計画原論
建築構法/構造力学
建築材料学・実験
応用数学

[造形・環境を学ぶ]
Environment Planning
基礎造形/造形演習
写真表現

講義系科目
[建築の意匠・理論を学ぶ]
建築意匠/建築概論
建築形態論
建築デザイン論

[建築の計画・技術を学ぶ]
建築施工/建築法規
建築設備・実験

[造形・環境を学ぶ]
都市デザイン/環境計画
ランドスケープデザイン概論

講義系科目
[造形・環境を学ぶ]
ランドスケープデザイン近代史
庭園史

学科の中心科目である「設計計画」の2015年度の課題と優秀作品を1年次から4年次まで紹介します。

[短期課題]

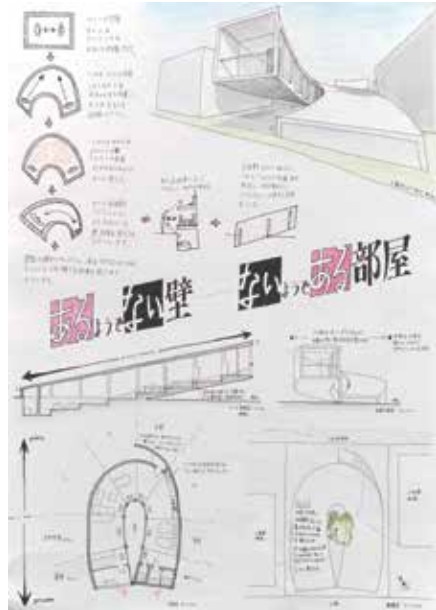
200 m²の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自らのデザインで実践するためのものである。

敷地・条件等：敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。住宅の規模は200 m²。平面・断面等の形状は自由に想定。ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦。



橋口鐘太郎「緑への導き」



磯野 信「あるようでない壁・ないようである部屋」



吉田 葵「庭を楽しむ家」



川村恵美「まちとつながりのいえ」

境界の発見からつくる

境界はしばしば人の特徴的な振る舞いと結びついている。誰しもドア際、縁側、交差点の角などで話し込んだ経験があるだろう。窓辺で本を読むのは明るさを確保するためだけだろうか。この課題では、キャンパス中に境界的な場所を見つけ、その特徴をくみ取り、角材(36×36×3600mm:25本)を用い、有形なものとして人の振る舞いを感じさせる境界的な場所を共同(5人)で設計・制作してほしい。



花田ひなた・水野幹大・山口亮輔・山下千彩貴・池谷麻里奈「いす×いす」

「境界の発見からつくる」制作プロセス

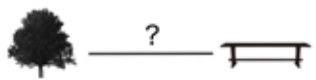
「いす × いす」コンセプト＝動きの変化
 新たな境界をつくるまで、茂みに入った人は今まで何もすることがなかった。しかし、イスのつながりによって訪れた人に「イスを追う・またぐ・視線を上げる」という動作を通して、人の振る舞いに変化を与えることができる。

場所を選んだ理由

- ①もともとある境界を崩したかった
- ②入り口がわかりづらい
- ③ベンチのところよりも開放感や光がある



ベンチと植栽の境界



もともとあるベンチを囲んだ境界である生理を破って新たな境界をつくりだす。ということをテーマに「ベンチと植栽の境界」を考えた。



制作の様子



作品のディテール



杉村沙紀・倉田怜伽・小島奈未・シンカイ・横澤 謙「Zigzag」



磯野 信・大塚悠貴・小川裕以・高巣とあ希・小杉将之「三角・スケール」

北キャンパスのパビリオン

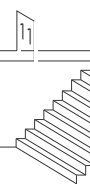
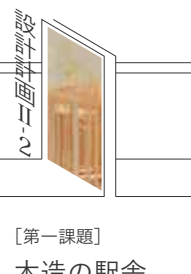
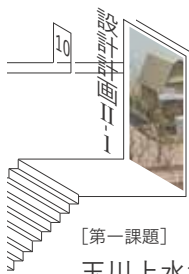
北キャンパス敷地図の指定された範囲から、一まとまりの矩形の250㎡の敷地を各自設定し（階段部を敷地に含めるときはその面積も含めること）、そこに立体作品を展示するパビリオンを外部空間とともに計画、設計する。このパビリオンは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、道路を通学路に使う学童などが立ち寄る公園の性格をもつパビリオンとし、ワークショップの利用も考えるよう考慮する。パビリオンは少なくとも隣接する二つの展示室からなるものとし、展示室相互、展示室と外部の連続性、境界性などを考えて設計する。パビリオンの内部空間は125㎡内外とする。外部空間もあわせて設計すること。



加藤英大「回転する道」



高橋一孫「支え合う箱」



[第一課題]

玉川上水沿いに建つ住宅

玉川上水沿いに住宅を設計しなさい。この住宅は、プライバシーを確保しつつ、玉川上水を通る人々へ何かしらのサービスを提供できる機能を併設すること。

家族構成：両親+子供二人（小学生と中学生）

施主の希望：外でのBBQ、家庭菜園

設計の留意点：上水沿いの景観、日射、季節、樹木、外からの視線対策など



立面図



断面図



綿川雅幸「There be bright house」

[第二課題]

新たな世代のための宿泊研修施設

場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およびそれに付随する施設が設計された。近年老化を理由に一部が取り壊され、現設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大部分が姿を消し、他の設計者による新しい施設がつくられ、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっている。

この施設では、さまざまなタイプの共同生活を想定した建物があり、それは、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し理解を深めることのできる空間となっている。

今回の課題は、指定された範囲内に下記に記された機能をもつ建物あるいは建物群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、自分の計画にあった敷地を想定し完成させてほしい。機能：1. 40名が宿泊できること。 2. 研究発表などができる集会室。 3. 自炊設備、洗濯、共同の浴室。 4. 屋外 BBQ スペース、それに必要な設備など。



渡邊和「composition=TSUTSU」

[第一課題]

木造の駅舎

木造軸組架構から考える

井の頭公園駅は吉祥寺駅からひとつめの、井の頭線内では最も乗降客が少ない駅である。井の頭公園が隣接し、周辺には閑静な住宅地が広がっている。

この場の雰囲気と調和した駅舎と駅前空間をデザインしなさい。

構造形式は木造軸組で、基本平屋とする。

タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。



飯谷洋子「森の駅」

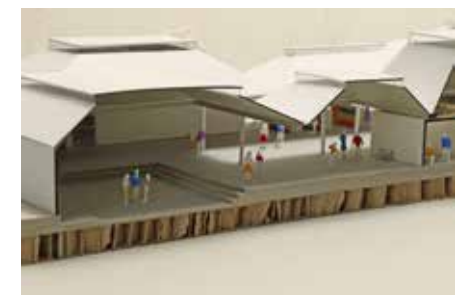
[第二課題]

武蔵野美術大学建築学科棟

本学鷹の台キャンパスを貫通する小平 3・3・3 号線道路（幅員 28m）が 2 年後に開通する。この道路を前提に、指定する敷地に建築学科が入る 新棟を設計しなさい。

新棟には、これからの大学の「顔」をつくる、地域に大学をアピールする、道路で南北に分かれるキャンパス内動線を整理するなど、さまざまな水準の検討が求められる。

タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。



七尾陽子・野口新・松田聖人「A-Atelier」

[源スタジオ]

国分寺崖線

地域センター・デザインオフィス

斜面地は建設など土地利用に不向きであるにもかかわらず、あえてそこに建てるという意味で、特別な意味が与えられがちであり、高低、乾湿、遠望と微視など異なる質の境界であることから、からだと心を揺り動かすその場所の力をどう感受し、理解するかに振れ幅のある、多義的な場所である。時代、文化の違いなどに応じてさまざまな精神性を表す建築が建てられたことも、こうした境界の特徴と無関係ではないだろう。このことを意識し、あなたなら今という時代にどのような精神性を帯びた建築や環境を想像するだろうか。国分寺崖線の与えられた敷地に地域センター・デザインオフィスからなる複合複合を計画設計する。この課題では境界が地域環境だけでなく建築の内部にも生じることを意識して設計に臨む。



羽根田雄仁「反転のうずまき」

[鈴木スタジオ]

身の丈の家

台東区谷中は多くの寺社があり、戦災を逃れた家屋が残る、東京では数少ない情緒あるまちなみをもつ地域である。近年そのまちなみは保存のための運動も活発となり、空き家を利用したカフェやショップがオープンし、国内外から多くの人々が訪れるようになった。一方で解体されるおそれのある空き家、老朽化した建物を維持・保全していくことはまちの課題である。地域性・歴史的背景を踏まえながら、まちの人が利用し、まちとの関係を築けるような既存の建物の活用方法を提案し、その一部をどのように改修するかを身体の振る舞い・ディテールまで設計してほしい。



手島純葉「欄干のあるところ」

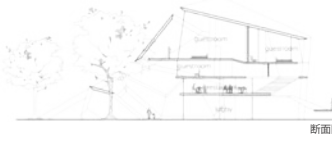
[高橋スタジオ]

都市の環境単位：吉祥寺駅周縁

都心では大規模開発によって既存の周辺と不連続な環境単位が出現している。一方、界限性をもちコンテキストが豊かなエリアは、その自然発生的で時間を経た資源を生かした環境単位の連なりとして、再評価されている。対象地である吉祥寺駅周縁域において、それが実現することで界限性が強化され、場所のもつ可能性が浮かび上がってくるような建築を構想・提案しなさい。自己完結せず、都市のインフラや既存の環境資源と積極的な関係性をもつこと。



立面図



断面図



佐々井 歩「BEND」

[河野・原田スタジオ]

鎌倉コンプレックス

建築は「人」と「場所」との関係性が重要な要素の一つである。その場所特有のさまざまな条件を結びつけながら、自由な発想で新たな可能性を引き出しなさい。鎌倉駅から歩いてほど近い御成町のプロジェクトで、敷地は3ブロックから成り立っている。3ブロックの境界線には、鎌倉駅や鶴岡八幡宮と海とをつなぐ若宮大路が通り、江ノ電やJR横須賀線が走り、河川も流れている。古都鎌倉の街と海、住む人と訪れる人、歴史と未来…など多様な条件と可能性を備えた敷地である。

第1課題「鎌倉コミュニティサイト」を通して発見した、鎌倉のある「何か」を起点として、街の結節点となる施設を計画しなさい。キーワード（売る買う、住む、飲む食べる、泊まる、たたく、読む、見る、聞く）から二つを選んで、複合施設を計画し、街の生活や文化、商業的に成立する企画など、街の活動起点になるよう努めること。



断面図



荒木愛香「ケンチク遊具」

[布施スタジオ]

経堂プロジェクト

住宅 + α の新しい可能性を提案する

都市部（世田谷区経堂）における住宅 + α のプロジェクトを企画・計画し、設計する課題。敷地は小田急線の経堂駅と千歳船橋駅の中間に位置し、周辺は戸建住宅、アパート、マンション、店舗が混在する地域である。この周辺環境における住宅 + α の用途（店舗、事務所、その他）を企画・計画することで、この地域との関係を考える。住宅の設計は、設計条件のさまざまな要素が設計の手がかりとなるが、この課題における建築的なテーマを設定し、そのテーマに基づいて設計を進めなさい。そして、住宅に + α の用途を併設することのできる住宅の新しい可能性を提案すること。



羽根田雄仁「暗がり壁の家」



山田陽平「折りたたむ」



藤野なみが「庭暮らし」

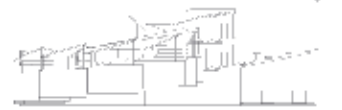
[菊地スタジオ]

地域の歴史を引き継ぐ郷土資料館

敷地は、現在東大和市の郷土博物館が建つところを想定する。この敷地は、狭山丘陵の足元であり、南側には武蔵野台地の平坦な風景が広がる。敷地上部は、敷地北西の尾根筋に通ずる遊歩道に接続しており、散策路の基点にもなっている。館内は戦時中の資料、狭山丘陵のダム工事で水没した集落、古くは縄文時代などの土器や道具などが展示されている。地域の子供も楽しめるようにプラネタリウムも併設している。



南西側立面図



南東側立面図



飯田湖波「風土を尊む郷土資料館」

[長谷川スタジオ]

シブヤ大学メインキャンパスとしての公園

シブヤ大学は、校舎をもたず渋谷の街全体をキャンパスに見立てた、一種の運動体である。「教える-教わる」の関係が随時に入れ替わる緩やかで流動的なあり様は、「見る-見られる」の関係が目まぐるしく入れ替わる公共空間がふさわしい。逆に言えばこういう関係が生まれるところが公共空間であるとも言えるかもしれない（公共が「提供」する空間ではなくて）。公園とは公共空間の中でも特に緩やかな関係でさまざまな都市活動が交錯する場所だと言える。同時にそこはただの空地ではなくて、さまざまな色を纏ってこそ個性と流動性が共存する場所になる可能性を秘めている。シブヤ大学がオペレーターとしてこの公園をメインキャンパスとする（見立てる）ことで、新しい公園像、新しい都市の活動の場を提案しなさい。



若杉勇「OBI PARK」

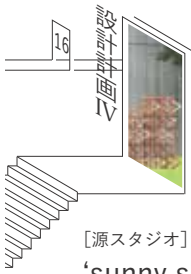
[土屋スタジオ]

東京散歩「場所のもつ記憶と力」

場についての考察。「場」とは、それぞれのメディアや関わり方によって多様な解釈を生むが、それぞれが独自のアプローチによって交差するところを「場」と捉え、そこから新たな表現を創造する。大都市東京は他に類を見ないほど複雑で、流動的かつ個性的な都市である。この不思議な構造をもつ東京を、縄文地図を持ち、垂直的な時間軸と連続しながら散策・考察することで、見慣れたはずの東京の相貌が、また別な視点で捉えられるのではないか。我々の足元にはさまざまな神話的時間が流れている。遠い過去の記憶と現在を一つに結びつけることも創造的冒険である。



石井夏帆「ひきこもる-東京-」

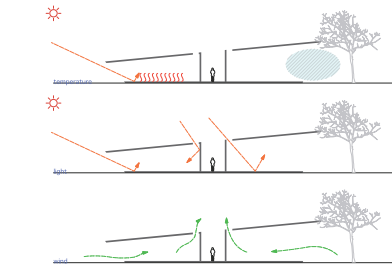


【源スタジオ】

‘sunny spot’

オフグリッドコミュニティと省エネ住宅の提案

2011年の地震と福島原発事故後に、日本でのエネルギーディスカッションは賑やかになり、日本中そして海外の例を探し、新たな考え方やゴールを発見することになった。その中には 2000 ワット社会という言葉も現れた。小さな自立したコミュニティづくりも注目を浴びており、そのコミュニティでは自分のエネルギーを自分で作り、場合によってはオフグリッドで快適なライフスタイルを行う場所となっている。この課題はステップ1として、仙台に程近い「日だまりの丘」という計画地において、住宅 12-16 戸のコミュニティを計画する。敷地は平らで、周りは森と山、夜は仙台の夜景を見ることができる。ステップ2として住宅の省エネとエネルギーの使い方について学び、コミュニティの中で一つの住宅を提案する。全体的には環境以外には楽しい空間とライフスタイルに取り組み設計を期待している。自分が住みたいと思っているものを提案すること。

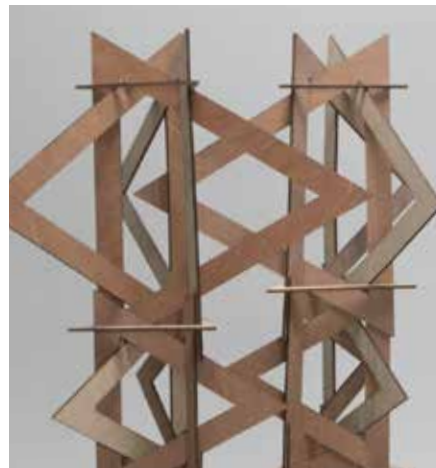
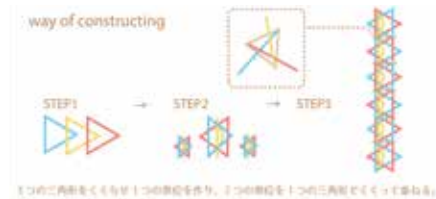


中村光介「Sustainable Base」

【鈴木スタジオ】

かたちのはじまり、かたちのおわり

建築の形態を考える上で、環境・身体との関係性を、日常の中から探索・分析・展開することを試みる。フィールドワークによるリサーチ、模型やダイアグラムを使った分析、コンピュータなどを使ったパラメトリック手法による建築モデルへの展開を通し、かたちのはじまり/おわり/その周縁を顕在化させる。

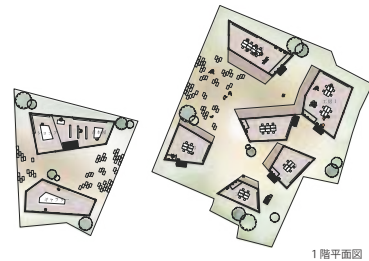


谷口和首・田島歩実・芳賀史奈・上田蘭世・平野純子「くぐる・くくる」

【高橋スタジオ】

新しいコミュニティのための建築

2011年の東日本大震災以降、「コミュニティ」や「絆」の重要性が語られることが増えた。それは多数の被災者が極限状態を生き抜くために、地縁を基盤とした「共助」の思想が極めて有効であったためと想像される。一方、東京圏に住む私達には、この「コミュニティ」という言葉が今ひとつ実感できていないように思われる。この課題では新しいコミュニティに対するパブリックスペースを提案するために、「家守」というキーワードを考える。家守とは空間の管理をしつつ、そのコミュニティの持続性を担うコンシェルジュのような存在である。パブリックスペースを上手く使いこなすためには、空間のガイド役となる家守の存在が重要である。自分が設計する空間にどんな「家守」がふさわしいのか考え、各自が選んだ東京圏の駅前にパブリックスペースを考案する。



1階平面図



山口珠備「生まれる 生まれ変わる」

【布施スタジオ】

「掘ること」が決める建築

掘ることによって生まれる居場所・風景・建築を考える

居場所や建築や風景をつくり出す方法はさまざまである。建築の一般的な構造には種々の方法があり、その国や地方独自の構法が存在する。近代建築以降はエンジニアリングに支えられた、柱梁でつくられたラーメン構造が街中の風景を支配しており、構法が町並みや建築や居場所を決めていると言ってもいい状態だが、本来、建築や居場所のつくり方は多様であっていいはずである。そこで、この課題では「掘ること」を通して、新しい居場所や建築を考えてみる。地面を掘ったり、建物のボリュームを一度立ち上げ、その中を掘り抜いて空間をつくっていくような入れ子のような考え方、アドルフ・ロースのラウムプラン、蜂の巣など、掘り込んだり引き算したり、内法面を拡張していきながら、空間をつくり居場所を決めていく作業を試してみよう。



小泉涼香「富士切りの湯」

[菊地スタジオ]

地形を読み解き 建築を考える

我々が暮らす東京は特徴的で複雑な地形をもつ、世界にも例がないほどの巨大都市である。地形を読み解き (Geography)、土地を学び (Geology)、土地を測る (Geometry)。地形を理解することで、そこに生み出された都市空間が見えてくる。地形がつけられた理由やその時間的変遷を調べ、都市や建築を地形との関係から学んでいく。さらに自ら魅力ある地形を見つけ出し、そこにその特徴を活かした新しい都市空間を計画してほしい。

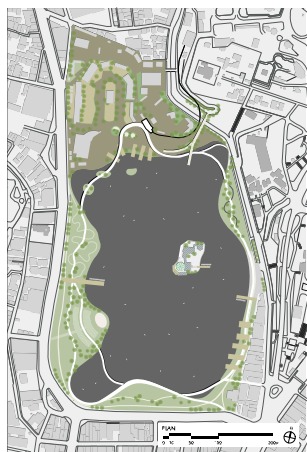


梅本りさ子「うくいずだに裏参道」

[長谷川スタジオ]

“都市のオープンスペース”について考える
上野公園を例として

上野公園は地理的には上野の山と呼ばれる武蔵野台地と不忍池から構成されており、寛永寺の境内に 1873 年に日本で初めての公園としてつくられた。江戸からの歴史を引き次ぐ寛永寺の建造物や史跡、あるいは現代建築を代表する博物館や美術館の数々、動物園、レストランなどが点在し、地下空間には、駐車場、京成ラインの鉄道なども通っている。それら全体をつなぎ、多目的に訪れる人々を受け止めるオープンスペースでは、仮設的、限定的に行われるさまざまなイベントやパフォーマンスなども繰り広げられている。このように上野公園はさまざまな文脈 (物語) が交差している密度濃い場所である。この課題では、今後ますます高密度化していく東京の都市空間の中で、オープンスペース/公園、それらにまつわる現象を解説し、上野公園の新たなプログラムを仮定し、それに基づき「公園の新たな場」を計画する。



馬淵菜月「SHINOBAZU-ROAD 不忍道」

[土屋スタジオ]

時代を超えた表現の交差

この世界に存在する無数の芸術表現は、その一つ一つがある時代を映し出しながらも、過去から現在そして未来へと連続としたつながりをもっている。それは芸術表現というものが人と世界との関わりにおける反射であり痕跡であるからこそ、異なる時代すらも超越し、絶えず更新されながら受け継がれていくからだろう。過去に表現者として個人を確立した作家の作品には、現時代における私たちの表現の根幹ともなり得る“種”を見いだすことができる。本課題では、「敬愛する過去の作家の一つの表現」を選択し、その表現との「濃密な会話」の中から「自分自身の表現行為における動機 (=種)」の一端を見つけ出し、それを「現時代における自分自身の一つの表現として結実させる」ことを目指す。そこには「時代を超えた表現の交差がもたらす、未知なる表現」が創出するだろう。

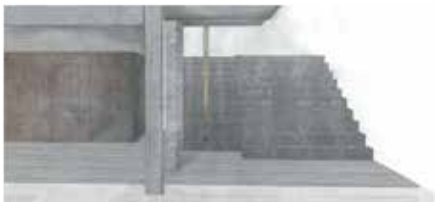


岡 修平「単体としての存在 / 関係としての存在」(高松次郎と不在について)

金賞・優秀賞（学校賞）

「A-A'」

奥泉理佐子（菊地スタジオ／建築設計）



演劇の舞台の上で、役者の振る舞いにより、自由自在に移り変わる境界線に憧れていた。脚本通りに自由な境界線を生み出す舞台と、行動は自由であるはずなのに物の位置に縛られる建築。ふたつを分かたず境界線 A-A' を取り払ったとき、どちらともつかぬ空間の移り変わりが生み出されるのではないかと考えた。

敷地の周囲に存在するものを「場見る」ことで点へと変換し、風景を忘れて点同士を結び、部材をつくる。部材上の素材の切り替え線は、風景上の線から抽出する。敷地と建築は一度関係を切られ、再

びかすかな関係を結んでいき、現れた空間内の線同士の齟齬は、騙し絵を見るときのように空間の輪郭を体験者に委ねることとなる。存在感を薄れさせることなく、可動することもなく、動かない建築のなかで自在に境界が移り変わっていく。

DATA：[模型] 計6点、S=1/50（本体）、S=1/400（その他）

[敷地] 東京都新宿区荒木町 [主要用途] 美術館、劇場 [敷地面積] 1217㎡（合計）

銀賞・優秀賞（学校賞）

「流れる景色、私の空間。—移動建築による新しいホテルの提案」

小栗涼香（布施スタジオ／建築設計）



移動する建築による新しい施設の提案をした。きっかけは他課題で『選択』について考えたことだった。景色の美しい廃線を再利用する方法、また、不動である建築を移動させることで起こり得ることを提案し、建築の新たな利用方法を考えた。利用者が用途別の移動する建築を選択し、それらを連結、3番線ホームを発車する。この移動する建築は、短時間の利用も宿泊の利用も可能であり、用途ごとに車両が分かれているため、ニーズに合わせた用途をその都度変化させていける。今回は、宿やスタジオ、宴会場を想定した。

これらの建築が移動した先に、停車駅がいくつか設計されており、立ち寄り、街と関わる。停車駅として、団子屋に付属した喫茶店、トイレ、銭湯を設計した。さまざまな選択肢の中で自分に合った空間を建築から景色まで選び、動き、留まる。ここではさまざまな物語が生まれていく。

DATA：[模型] 計4点、S=1/50 [敷地] 埼玉県川越市西武安比奈線 [主要用途] 複合施設 [敷地面積] 42070㎡

銅賞・優秀賞（学校賞）

「結び紡ぎ、時を思う」

鈴木美緒（土屋スタジオ/インスタレーション）



布が織られた時間。
わたしが布を解く時間。
新たにわたしが解かれた糸を空間に紡ぐ時間がある。
横糸を抜くと模様は溶け、布の時間がゼロに戻る。
そしてわたしが糸を空間に再構成し時間の視覚化を表す。
自分の手で解き紡ぐことで、布に内在する時間に関わり、わたし自身がその布の中に入っていくことを感じた。それらを空間に立ち上

げることは、わたしにとってそのものの時間を思うことであり、また、そこにはわたし自身と布との関わり合いの時間が流れている。
時間と模様の再構成。その時を思い、その時間に入り込んでもらえたら。
DATA：[形態] 立体作品 [素材] 布 [サイズ] W5000×D6000×H4600mm

優秀賞（学校賞）

「0.3の境界—江ノ電の新しい車窓風景の提案」

遠藤貴大（布施スタジオ/建築設計）

私たちは当たり前のように電車に乗って移動しているが、ふとした瞬間に車窓から見える風景に魅力を感じることもある。
神奈川県鎌倉市長谷2丁目に観光客と住人の双方が利用できる複合施設を計画した。対象の敷地を通る江ノ電は、平均時速 20 kmと特にスピードが遅く、場所によっては線路と建物の距離がとても近い路線である。この特徴のため、線路側に開口部を設けると、車窓からでも建築内部を見ることができる。建築の用途それ自体や、使用する人々の行為、周辺環境などによって、車窓から見える風景を創り出してゆく。全長 10 km の江ノ電のうち、0.3 km の車窓風景を変えることで、江ノ電の魅力は増幅し、既存の景色と混ざり合い、新たな景色を紡いでゆく。

DATA：[模型] 計 2 点、S=1/100（本体）、S=1/30（その他） [敷地] 神奈川県鎌倉市長谷 [主要用途] 複合施設 [敷地面積] 5100 m²



優秀賞（学校賞）・奨励賞

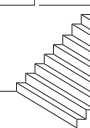
「識る」

吉澤大起（土屋スタジオ/インスタレーション）

多様な視点をもつことで新たな解釈を得られると思った。あそこから見ると、そこから見るあれが異なるように。展示場所を 8 号館吹き抜けに選んだ理由は各階各面に開口が設けられ 360 度に近い視点を擁しているため「多様な視点をもつ」という主題との相性が良いように思われたことと、8 号館吹き抜けという共通認識のある場に変化をもたらすことで受け手側に対し新たな視点で空間と向き合うことを促せると思ったからである。吹き抜けの開口の四辺から別の開口へと糸を繋ぎ、境界が曖昧な空間を三つ浮かび上がらせた。見る場所や角度により多くの表情を窺わせることで空間の認識の仕方を鑑賞者に委ねられると考えた。さらに日差しやその影、空模様と重なり絶え間のない変容を生む。それらの要素を含めた多様な視点からのアプローチを促すことを目的とした。

DATA：[形態] 空間インスタレーション [素材] 水系（ポリエステル）、木材 [サイズ] W9600×D9600×H9900mm





奨励賞

『『私』を置く、『私』を広げる。』

田中 楓 (土屋スタジオ/インスタレーション)

個人の領域がぶつかり合い混ざって曖昧になったりしていくことが面白いと感じた。個人の領域と個人の領域がぶつかる境界についてを作品にした。そのモチーフに選んだ場所が、私が所属する団体、アートサイト八郷の部室兼アトリエの「ゆずや」という一軒家である。「ゆずや」そこにおける「私」の領域のつくり方、「みんな」の物に埋もれた部屋。物も人も使い方も曖昧なこの「ゆずや」と向き合うために、私は「ゆずや」を「私の空間」をひたすら描いていく。通りかかる人の目の前に出現する「ゆずや」という私的な場所。寒そうに外を歩く人とガラス越しに目が合った。時たまに、そのまま「ゆずや」の中を覗きに入ってきたりする。これはどこなんですか？と会話が始まる。そうしたら私は中に案内して、「ゆずや」のエピソードを話す。

DATA:[形態] 立体作品、冊子 [素材] 木材、ダンボール [サイズ] W4000×D5300×H2600mm



奨励賞

「石切場 あるいは流刑地」

梅本りさ子 (源スタジオ/建築設計)

良質な石が底を尽いたのと同時にそこに置き去りにされた石切場跡、ここには人間の手によってつくられた奇妙な風景が広がっているが、そこに足を運ぶ者はほとんどいない。また、山内に建つ由緒正しき日本寺は、大火によって座禅堂、宿坊、法和室が消失したが、復興費用が集まらず再建の目処が立っていない。

そこで、これらの消失した施設の機能を備えた建築を石切場につくことで、日本寺の復興を目指すとともに石切場跡への新たな動線を提案する。石切場跡に以前あった山の虚像を立ち上げることをテーマとし、内部に入ったときにそこにあった山の輪郭を想起させるような空間をつくらうと考え、

1. 実体がかみかず方向感覚を喪失すること
2. 入口から下降する垂直空間であること
3. 包囲感があること

という3つの地下空間の要素を取り出して設計をした。

DATA:[模型] 計6点、S=1/100(本体)、S=1/3000(その他) [敷地] 千葉県富津市鎮山 [主要用途] 複合施設 [敷地面積] 1730 m²



奨励賞

「恵比寿の狭小住宅」

田畑みなと (布施スタジオ/建築設計)

居心地の良い空間とはどのようなものだろうか。人がどのような空間で、どのように居心地を感じるのかという観点から、最小のスケールで居心地を追求する狭小住宅に取り組んだ。住人は父母息子の3人を想定した。本来、狭小住宅は生活に必要な機能を備えるためにギリギリまで内部空間としてしまうものが多いが、今回はうまく外部空間を取り入れて空間の広がりを感じさせるという操作に取り組んだ。フロアを細かく分け全てが干渉し合うことで居心地の良い空間をつくり出そうとした。旗竿地特有の細い部分を階段とすることでアプローチや、庭として使える部分を多く作り出し、内部空間に外部の動線を引き込んだ。下の方では、ギャラリー利用者や街の人が自由に階段を利用し、上に行くに従って住人だけが利用するスペースとなっていく。狭小住宅において失われがちな曖昧なアプローチ部分をつくり出すことも、居心地に大きくつながると考えた。

DATA:[模型] 計1点、S=1/30 [敷地] 東京都恵比寿 [主要用途] ギャラリー併用住宅 [敷地面積] 91 m²



奨励賞

「Remodeling」

岡 修平 (土屋スタジオ/インスタレーション)

生活という言葉から何を想像するだろう。生活のイメージが集合し形態が変化することでイメージのパーソナリティが徐々に消却されて、生活という概念だけが包み込まれる。

私たちが無意識にもイメージを意味と無意味、在と不在の間で開くこの行為を、私は Remodeling と名付けることにした。

DATA:[形態] 立体作品 [素材] 家具、ラップフィルム [サイズ] W2000×D2500×H2500mm



学部4年間で取り組んだ制作や研究のテーマをさらに深め探求したい学生には大学院進学という選択もあります。

大学院では、専門領域・建築理論・方法論を異にする教授のもとで各スタジオに所属し、それぞれに中心テーマをもって自分の課題に取り組みます。スタジオの指導教員と密接な関わりをもちながら、将来、建築家・デザイナー・アーティスト・研究者として活動するための制作・研究の核心となる考え方や方法を探索していきます。

2015年度修了制作優秀賞

「重なる空間認識—多視点の応用による空間試行」

木下洋介



「経路の編集」

関里佳人



「居場所への招待」

宗像秀展



「地帯の分岐」

山下真一郎



「建築の多様化への考察—独り空間」

鈴木直



大学での授業だけではなく、その延長として社会と関わる活動や国際交流なども行っています。

学外とのコラボレーション／国際交流プロジェクト

建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランドスケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取り組んでいます。



アートサイト八郷 2015 夏「音の小宇宙 - コスモ」

■2010年度以降の学外プロジェクト

愛知県額田天使の森アートプロジェクト／茨城県旧八郷地区・アートサイト八郷／太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ／神楽坂プロジェクト／笠間の菊まつりプロジェクト／鎌倉御成町プロジェクト／近代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト／高知県佐川町プロジェクト／JR中央ラインモール計画／瀬戸内・女木島プロジェクト／常盤平アートセンタープロジェクト／徳島県勝浦川環境アートプロジェクト／松戸アートラインプロジェクト／横浜黄金町再生プロジェクト／ららぽーと立飛スペースデザインプロジェクト／陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト

■2010年度以降の国際交流プロジェクト

「すき間」から考える新しい住まい方（デンマーク王立芸術アカデミー建築学部）／チェルシー・キャンパス・プロジェクト（ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン）／地下探訪—都市形成の変遷とカタフィル文化の考察（パリ国立高等美術学校）／訪問教授フィリップ・ベヌカン（フランス）／訪問教授ハリー・コスキネン（フィンランド）「Light Matters」／訪問教授ソフィー・クレール（オランダ）「Field Essays Workshop "matter that matters"」／訪問教授エンリック・マシップ（スペイン）「ラーバン」



訪問教授ソフィー・クレール「Field Essays Workshop」

建築学科の専用施設

建築学科では製図室や工房などそれぞれの制作に応じた施設を充実させています。



■製図室

1～3年生まで学年別に製図室があり、一人一台の製図機を使用することができます。



■建築工房

建築学科専用の工房はパネルソーやスライドソー、溶接機、レーザー加工機など、さまざまな素材・加工に対応可能な機材を備えており、学生は必要に応じて利用することができます。

■ゼミ室：4年生になると所属するスタジオごとに割り当てられたゼミ室で制作を行います。

■院生室：大学院生室はコンピュータのほか、プリンターやスキャナーなど、院生の研究活動に必要な機材が導入されています。

■講義室：建築学科専用の308講義室では専門科目の講義のほか、ゲストを招いての課外講座やパーティカルレビュー（7月・12月に行われる課題作品選抜講評会）などのイベントも行われます。

■展示スペース：普段は自由に使える空間ですが、課題の締め切り近くには制作場所になったり、講評時にはここで展示と発表が行われます。

■写真スタジオ：撮影機材を備えた写真スタジオは、主に学生の課題作品の模型写真撮影や個人研究としての写真撮影のために使われています。

多彩な専門分野・研究テーマをもつ教員が、学生ひとりひとりの関心に合わせて指導します。



布施 茂 主任教授
建築家 fuse-atelier 代表

—専門分野・研究テーマ

建築設計。建築におけるシークエンス、空間的分節、プロポーション、素材、ディテールの探求。

—布施スタジオのテーマ

建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探求します。

studio.fuse-a.com

1960年千葉県生まれ。84年武蔵野美術大学建築学科卒業。84年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85年～第一工房、95年間設計部長。2003年 fuse-atelier 設立。04年武蔵野美術大学助教授。06年～同教授。主な作品に「全労済情報センター」（第一工房）、「群馬県立館林美術館」（第一工房）、「House in TATEYAMA」、「House in ABIKO」、「House in TSUTSUMINO」、「HOUSE in TSUDANUMA」など。



鈴木 明 教授

—専門分野・研究テーマ

建築デザイン、建築計画、建築論、インタラクションデザイン。社会的な活動としてワークショップによるまちづくり、建築批評や建築展（企画運営）。研究課題として「セルフビルド建築研究」「ル・コルブジエの身体画像に関する研究」など。

—鈴木スタジオのテーマ

3年生は、身の丈の家（人間の身体寸法やふるまいから建築や都市を考察し設計する）に取り組み、4年生は、コンピュータを用いたパラメトリックな建築の方法論を学びます。卒業研究（論文と制作）は、これら基礎的な方法論と各自の関心から、建築設計・建築理論・セルフビルドなど個別の研究を進めます。

www.facebook.com/akirasuzukistudio



源 愛日児 教授

—専門分野・研究テーマ

デザイン行為における参照概念の存在とその変容の様相を、日本の歴史的木造建築構法を対象に研究すること。継手仕口、指物架構の種類、在来木造の成立などの研究。

—源スタジオのテーマ

概念から自由である建築、環境のデザイン。その環境に暮らす人が自由である、またそのことを通して人の存在感に働きかける建築デザインを目指す。歴史的都市の変容、身体と建築、現象の建築化、連家など。

www.arc.musabi.ac.jp/studio/minamoto/



高橋 晶子 教授

建築家 ワークステーション共同主宰

—専門分野・研究テーマ

建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

—高橋スタジオのテーマ

無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。

www.wstn-arch.com/takahashistudio/



菊地 宏 准教授

建築家 菊地宏建築設計事務所代表

—専門分野・研究テーマ

建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

—菊地スタジオのテーマ

建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio



長谷川浩己 特任教授

オンサイト計画設計事務所パートナー

—専門分野・研究テーマ

ランドスケープ・アーキテクチャ。実務をともない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

—長谷川スタジオのテーマ

自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いため、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。

musabi-landscape.net



横河 健 客員教授

建築家
横河設計工房主宰

—専門分野・研究テーマ

建築設計・家具他プロダクトデザイン

—学生に期待すること

世界的視野をもつこと、良い暮らしを目指すこと、先頭に立つ勇気をもつこと。

※スタジオは開設していません。

非常勤講師

青木弘司（設計計画Ⅲ-2）
芦沢啓治（設計計画Ⅰ-1）
伊藤裕久（都市デザインⅡ）
若下泰三（工学）
岩田明宏（建築施工Ⅰ/Ⅱ）
江村哲哉（構造デザインⅡ）
大井早苗（計画原論Ⅱ）
大嶋信道（建築材料学・実験Ⅰ）
大野映彦（ランドスケープデザイン近代史）
岡本真理子（基礎数学、応用数学）
興松良昌（写真表現）
小倉康正（建築設計表現、設計計画Ⅰ-1/2）
笠置秀紀（建築設計表現）
片瀬一郎（設計計画Ⅰ-1/2）
金光弘志（設計計画Ⅲ-2）
河内孝夫（建築設備・実験Ⅰ/Ⅱ）
川口有子（設計計画Ⅲ-1）

川村政治（建築設備特論）
岸田谷吾（建築意匠Ⅱ）
木津雅代（庭園史）
桑田 豪（設計計画Ⅰ-1）
小泉一斉（設計計画Ⅱ-2）
河内一泰（設計計画Ⅱ-1）
河野有悟（建築設計基礎、設計計画Ⅲ-1）
児玉治彦（環境計画Ⅱ）
後藤 茂（都市デザインⅡ）
小林 友（建築設計基礎）
小林和夫（建築設備・実験Ⅰ/Ⅱ）
小松宏誠（設計計画Ⅲ-2）
小宮 功（設計計画Ⅱ-2）
齊藤祐子（設計計画Ⅲ-1）
笹口 敦（設計計画Ⅲ-1）
佐藤 至（建築法規Ⅰ/Ⅱ）
洪江桂子（環境生態学特論）
鈴木賢人（構造力学基礎）
砂山太一（設計計画Ⅳ）
吉住正文（設計計画Ⅱ-1）



土屋公雄 客員教授

彫刻家
環境造形アーティスト

—専門分野・研究テーマ

環境造形、現代美術、アートプロジェクト。1分の1の感動体験と、実践的な活動を通し新たな表現世界を探求する。

—土屋スタジオのテーマ

建築とアートの領域をしなやかに超え、想像力と創作力を友として、未来を力強く生き抜くクリエイターを育てたいと願っています。

www.arc.musabi.ac.jp/studio/tsuchiya/



アストリッド・クライン
客員教授

建築家 クライндаイスム
アーキテツ共同主宰

—専門分野・研究テーマ

建築設計、インテリアデザイン。

—学生に期待すること

英語力を身につけ、世界を自分の目で見て回ってください。

※スタジオは開設していません。

園田有児（計画原論Ⅱ）
田尾玄秀（構造デザインⅠ）
高沖 哉（環境計画Ⅱ）
田口明美（建築設備・実験Ⅰ/Ⅱ）
田原唯之（設計計画Ⅳ）
常山未央（設計計画Ⅲ-1）
戸井田 雄（造形演習）
中村幸悦（構造力学Ⅰ）
新聞謙一郎（設計計画Ⅳ）
林 英理子（設計計画Ⅳ）
原田将史（設計計画Ⅲ-1）
彦根アンドレア（設計計画Ⅳ）
日野雅司（設計計画Ⅳ）
藤田修司（設計計画Ⅱ-2）
細矢 仁（設計計画Ⅳ）
増田信吾（設計計画Ⅳ）
松井晃一（構造力学Ⅱ）
三浦清史（建築材料学・実験Ⅱ）
三家大地（設計計画Ⅲ-2）
元木大輔（設計計画Ⅱ-1）

山内彩子（環境計画Ⅱ）
山田茂雄（庭園史）
祐葉坊 進（環境デザイン論）

研究室スタッフ

助手：安島総一郎
入江剛史
白田桃子
教務補助員：稲葉祐貴
橋田圭介
田中雄己



「メトロ文化財団ビル」(2015年)



酒向 昇

建築デザイナー
竹中工務店東京本店
設計部副部長

一現在のお仕事について
オフィスビルの設計を中心に、設計から実施設計・監理、コンペや改修までを担当する設計グループを率いています。

ームサビで学んだこと
分野を超えた授業内容により、問題を明確化し解決するプロセスを学び、それは現在の仕事にも活かしています。



「F 広州 FEI」(2013年、「Restaurant & Bar Design Awards 2014」大賞受賞)

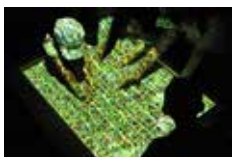


小坂 竜

乃村工務社 商環境
事業本部 A.N.D.
クリエイティブディ
レクター

一現在のお仕事について
大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レストラン・レジデンスなどのデザインをしています。

ームサビで学んだこと
色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しさを体験することができました。



「Magnetosphere」インタラクティブ砂状硬軟
感覚ディスプレイ (2007年)



串山久美子

メディアアーティスト
首都大学東京教授

一現在のお仕事について
デジタル技術を利用した映像や音や触覚のインタラクティブアートやインターフェイスデザインの制作・研究・開発をしています。

ームサビで学んだこと
学ぶことと遊ぶことがとても近いこと、思考の柔軟さ、何でも前向きに楽しんでチャレンジする面白さを先生や友人から学びました。



「Dogo Kameko Hutto / 栴ヒュッタ」(その後オンセン
ト2014にアーティストとして参加) 撮影=KIKI



KIKI

モデル

一現在のお仕事について
雑誌はじめ広告、TV 出演、連載執筆。近年では自身の写真展『PRISMA』シリーズを発表。また芸術祭に作家として参加など。

ームサビで学んだこと
建築と一言でいっても幅広い世界があり、さまざまな表現方法があること。また何か一つのことを続ける大切さを教えてもらいました。



「スマラガ郷土資料館」(2014年)
撮影=KOBFUJI Architects



小嶋 香

KOBFUJI Architects
共同主宰

一現在のお仕事について
スペイン・バルセロナを拠点に、建築・内装設計や展覧会等のイベント企画制作をしています。

ームサビで学んだこと
分野を超えた授業内容により、音楽、デザイン、アート、美術史等、多方面から建築へアプローチすることの楽しさを学びました。



TOTO ギャラリー・開展覧会「ここに、建築は、可能
か」(2013年1-3月) 撮影=Nacsas & Partners Inc



遠藤信行

TOTO ギャラリー・
間代表
TOTO 出版 編集長

一現在のお仕事について
TOTO (株)の文化活動の一環として、建築文化の向上を目的に、自主企画で展覧会・講演会の開催、出版物の発行などを行っています。

ームサビで学んだこと
「建築」が単なる工学的なものではなく、数千年の人類の歴史を担ってきたこと、文化・芸術的側面の価値も非常に大切であること。



「青豆ハウス」(2014年) 撮影=ブルースタジオ



大島 彦彦

株式会社ブルースタ
ジオ専務取締役
クリエイティブディ
レクター

一現在のお仕事について
平成12年からムサビの同級生3人で始めた会社「ブルースタジオ」でリノベーションをテーマにコトづくりの仕事をしています。

ームサビで学んだこと
人と同じことより違うことが価値とされる校風。多様な感性をもつ仲間との交流、対話が自らの感性を磨いてくれました。



「TITL VILLA」(2005年、インドネシア・バリ島)



鄭 秀和

インテンショナルリス
代表

一現在のお仕事について
建築、インテリア、プロダクトという枠組みを横断して、都市形成に関わることをデザインしています。

ームサビで学んだこと
異業種のデザインする方々との自然なコラボレーション。

主な就職先

- アトリエ系建築設計事務所
青木淳建築計画事務所、芦原太郎建築事務所、アندوق・アトリエ、伊坂デザイン工房、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畠森泰行建築設計事務所、小川晋一都市建築設計事務所、沖本初建築設計事務所、オンデザインパートナーズ、カスヤアーキテクトオフィス、城戸崎建築研究室、コンテンポラリーズ、SANAA、スタジオプラナ建築設計事務所、圃圀匠建築設計事務所、手塚建築研究所、永山祐子建築設計、梶田喜夫建築設計室、彦根建築設計事務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細久仁建築設計事務所、前田太郎建築設計事務所・ペイリフ、横総合計画事務所、増田信吾+大坪克直、光井純&アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラムスタジオ、矢萩喜俊建築設計事務所、山本理顕設計工場、ヨコモマコ建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ラカンデザイン研究所、ロカ、ワークステーションー級建築士事務所、若松均建築設計事務所
- 組織設計事務所
日建設計、日本設計、あい設計、池下設計、伊藤喜三郎建築研究所、梅沢設計、相和技術研究所、日本建築構造センター、バックグラウンド、プランテック総合計画事務所、三輪設計事務所、UDS、類設計室
- 建設会社
大林組、鹿島建設、清水建設、大成建設、竹中工務店、青木あすなろ建設、SYK、小川建設、鴻池組、JR 東日本、JR 東日本都市開発、ジェイアール東日本ビルディング、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、高松建設、動真建設、戸田建設、平成建設、森ビル、ヤマウラ
- 住宅メーカー
大和ハウス工業、住友林業、積水ハウス、ミサワホーム、三井ホーム、アクアホーム、エス・バイ・エル、タマホーム、東急ホームズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム東京、レカールサエ、ニット+住宅、バナホーム、吉都ホーム、ボラスグループ、ヤマネホームディングス、ユウキ建設
- 不動産業
エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、草野工務店、サジェスト、大東建設、日神不動産、Fan's、三井不動産リアルティ
- ランドスケープデザイン
オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ・アソシエイツ、ランドスケープデザイン、ランドブレイン
- インテリア・ディスプレイ

在校生・卒業生の主な受賞歴

- 2016年
「第15回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展」出展：増田信吾
「スター・マイカ第2回リノベーションコンテスト」優秀賞：大野馬佑衣、入賞：小島一真・石垣直将・大松真由・飯田湖波
「JIA 第14回大学院修士設計展2016」奨励賞：関 里佳人
「第9回長谷工住まいのデザインコンペティション」最優秀賞：池川健太
「平成27年度住まいのインテリアコーディネーションコンテスト」部門賞：池川健太
- 2015年
「津島型町家の住宅モデルプラン」優秀賞：大重雄輝+井上 岳
「Tokyo Midtown Award 2015 アートコンペ部門」準グランプリ：上坂 直
「Asia Architecture Award」Short list：藤田修司
「Portfolio Review 2015」最優秀賞：関 里佳人
「日本建築学会賞」教育賞：大島彦彦
「第38回学生設計優秀作品展(レモン展)」長谷川逸子賞・レモン賞：池川健太
「JIA 第24回東京都学生卒業設計コンクール2015」銀賞：野口友里恵
「第15回卒業設計コンクール」特別審査員賞：小谷崇人
「日比谷ランドスケープデザイン展2015」優秀賞：野口友里恵
「渋谷駅桜丘口地区再開発計画デザイン・アートワーク アイデアコンペティション」佳作：滝川寛明
「キッチン空間アイデアコンテスト」奨励賞：石井 陽
- 2014年
「THE PRIZE FOR EMERGING ARCHITECTS」増田信吾
「Restaurant & Bar Design Awards 2014」大賞：小坂 竜 (A.N.D.)
「住宅課題賞2014」優秀賞3等：池川健太
「関東学生景観デザインコンペティション」優秀賞：小笠原智美
「第27回日経ニューオフィス賞」関東ニューオフィス奨励賞：藤田修司
「JCD デザインワード2014」金賞：増田信吾

- 丹青社、乃村工務社、イニシャルジャパン、イリア、インテンショナルリス、ウエル・ユウカン、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、ココロ、コトブキ、サンリフレホールディングス、ジーク、GK デザイン、ジュールアソシエイツ、スタジオムーン、スーパーボギープランニング、スペース、船場、ソーケン、高島屋スペースクリエイティブ、タカラスペースデザイン、竹内デザイン、ツクルバ、デザインアートセンター、トクラス、ドラフト、夏水組、日建スペースデザイン、プロテラス、ボンデオデザインスタジオ、三越伊勢丹プロバティ・デザイン、ルーヴィス
- ファッション
アズノウアズ、イッセイミヤケ、エース、オンワード樺山、ケイ・ウノ、コムデギャルソン、ペイクルーズ、丸高衣料、リデア
- 舞台
劇団四季、シズオクト、日本ステージ
- メディア
NHK、テレビ朝日、新建築社、商店建築社、TCJ、マルモ出版
- 広告・グラフィックデザイン
アマナホールディングス、電通テック、凸版印刷、博報堂アイ・スタジオ、ピークス
- 公庁
宮内庁、宮城県庁、昭島市役所、神戸市役所、調布市役所、飯能市役所
- その他
NTT データ・ファイナンシャルコパ、クレスコ、湘南ゼミナール、TOTO エキスパート、日大グラビヤ、日比谷花壇、ベネッセスタイルケア、UT コンストラクション・ネットワーク、ルビシア、レクシア

主な進学先・留学先

- 武蔵野美術大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、東京藝術大学大学院、横浜国立大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、大阪大学大学院、信州大学大学院、熊本大学大学院、大阪市立大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、東京理科大学大学院、明治大学大学院、京都造形芸術大学大学院、同志社大学大学院
AA スクール、ランドワーク・プラットインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン大学、ロンドン芸術大学

- 「JCD デザインワード2014」銀賞・新人賞、「DSA 空間デザイン賞2014」山倉礼士賞、「SDA アワード2014」入賞：山本大介
「JIA 第23回東京都学生卒業設計コンクール2014」鈴木美香、「JIA 全国学生卒業設計コンクール2014」竹内賞：井上 岳・大重雄輝・清水太幹
「第3回奨賞学生アイデアコンペティション」佳作：石井 陽
「Portfolio Review2014」入賞：池川健太
「第14回卒業設計コンクール」特別審査員賞：荒井 卓

- 2013年
「日本建築学会賞」文化賞：遠藤信行
「第13回卒業設計コンクール」優秀賞：田中裕夫、特別審査員賞：佐藤仁美、さいたま住宅検査センター賞：高井志帆



THE PRIZE FOR EMERGING ARCHITECTS 受賞「廊下の窓」
増田信吾+大坪克直

2017年度 建築学科 入学試験

一般入試 募集 70 名			公募制推薦入試 募集 10 名	大学院入試 造形研究科修士課程デザイン専攻建築コース
一般方式 募集 40 名 本学独自の学科・専門試験	センター A 方式 募集 15 名 大学入試センター試験 + 本学独自の専門試験	センター B 方式 募集 15 名 大学入試センター試験のみ	●自己推薦方式 (学校長推薦不要/評定平均値指定なし) 自己推薦調書による第一次審査と、表現力テスト+グループ面接による第二次審査で、建築学科で学ぼうとする関心の高さを主眼として選抜します。出願に先立って希望者には「事前面談」を実施します。 ●出願可能年齢 2017年4月1日時点で満28歳以下の者 ●出願期間 2016(平成28)年10月14日(金)から10月26日(水)まで(Web出願後郵送受付・消印有効)	●選考方法 小論文(英語含む) プレゼンテーション 面接 ●提出作品 1. 近作 1 点 (プレゼンテーションで使用する模型・パネル・デジタルメディア ^{※3} を任意に1つ以上選択) 2. ポートフォリオ (近作 3 点以上) または論文 <small>※3 ファイル形式は、jpg、pdf、ppt、動画は mov とする。提出方法は事前に確認のこと (arc@musabi.ac.jp)</small>
学科試験 国語 100 点 外国語^{※1} 100 点	本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目 ^{※2} 国語/外国語/数学 のうち1科目選択 100 点 選択科目 100 点	外国語 100 点 国語/数学 のうち1科目選択 100 点 選択科目 100 点		
専門試験 鉛筆デッサン 数学 どちらか 1 科目選択 200 点				

※1 フランス語を選択する場合は、大学入試センター試験で受験

※2 本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目の詳細は武蔵野美術大学ホームページへ

入学試験に関する情報・お問い合わせ

武蔵野美術大学 www.musabi.ac.jp/ 入学センター tel: 042-342-6995 (月～土曜 / 9:00～16:30)

学部卒業後に 取得可能な資格

- ・一級建築士受験資格 (2年以上の実務経験が必要)
- ・二級建築士受験資格 (実務経験の必要なし)
- ・木造建築士受験資格 (実務経験の必要なし)
- ・学芸員 (別途、科目履修が必要となります)

※大学院は一級建築士受験資格要件に対応しています。大学院で開講している科目の単位修得数により、一級建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。詳しくは建築学科ホームページで確認または研究室にお問い合わせください。
※本学科には教職課程は設置されていません。

武蔵野美術大学建築学科 学科紹介 2017
2016年6月10日発行

発行：武蔵野美術大学建築学科研究室
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
tel: 042-342-6067 fax: 042-344-1599
e-mail: arc@musabi.ac.jp
HP: www.arc.musabi.ac.jp
facebook: www.facebook.com/arc.musabi

監修：武蔵野美術大学建築学科研究室
編集：白田桃子
デザイン：瀧田暁月、建築学科研究室(表紙)
写真：村松 聡、浜崎昭匡、建築学科研究室
印刷：株式会社アトミ

